

# メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第57号 〔2013年11月号〕

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第57号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

メソトマンスリー

国内から

- ・ スタディツアーに参加して

国際保健医療協力のなかで (23)

今月の一枚

編集後記

次号の予定





【メソト＝田畑 彩生】

## メソトマンスリー

# ロイクラトン・コムロイ祭り

朝夕が涼しい季節となって来ました。もうすぐメソトには冬がやってきます。

この季節、水の神様に祈り、難を水に流し、祖先を祈る仏教のお祭りが、タイ全土で11月の満月の日に行われます。今年は、11月17日が満月のお祭りでした。

ロイクラトンとは、タイ語で、クラトン(ロウソクのついた浮き舟)を川へ浮かべる事を言います。

コムロイとはキャンドル・ランタンを空へ浮かべるもので、「星空を皆でつくる作業」と友人が素敵に表したこのお祭りです。まさに、夜空が天の川の様になります。

ビルマではウィボーと呼ばれて人々に愛されています。



タイでは、チェンマイやスコタイが本場と言われますが、メソトもたくさんの人々が夜な夜な国境のモエイ川へクラトンを浮かべ、空へコムロイを浮かべます。川の向こうのビルマ/ミャンマーからも国境のモエイ川へクラトンを浮かべ、空へコムロイをあげる幻想的な祈りの夜です。今年は、健康と幸せと平和を願って、ゆかさんとコムロイをあげました。皆で一斉にあげられる何百ものコムロイは、幻想的で、自分たちまでも空へ浮かびそうな感覚になる瞬間です。



日本にも精霊流しと言われお盆の時期になると川へ灯籠を流す行事があります。中国が起源と言われるコムロイ(天灯)は夜間ののろし(警告の合図)や通信手段として使用されていたと言われ、諸葛孔明の灯とも呼ばれています。

メソトへ赴任し、早くも一年。

昨年この季節は、シンシア医師日本招聘の時期でした。1年を走馬灯の様に振り返り、出会ったたくさんの方々、ご縁を思い、祈りを浮かべたコムロイ。折り返しの一年、気持ち新たに事業へ取り組みます。

国内から

## スタディツアーに参加して



【東京＝白壁 彩】

はじめまして。日本事務局を担当している白壁と申します。

昨年11月にシンシア先生が来日した際の講演会に参加し、ご縁あって、JAMの日本事務局の活動に今年1月から関わらせていただいております。現在は都内の看護大学に通い、来年3月に卒業予定です。今年度は、主にスタディツアーやグローバルフェスタのお手伝いをさせていただきました。

今年の夏、学生生活最後の夏休みにスタディツアーに参加し、国境の街メソットを初めて訪れて、特に感じたことをお話しさせていただきたいと思います。

今回のスタディツアーでは、主にメータオ・クリニック、難民キャンプ、移民学校、ゴミ山などを訪れました。

初めてメータオ・クリニックに足を運んだ際、スタッフの皆さんや患者さんが会う度に温かく挨拶をしてくださったことが印象的で、どこか懐かしい気持ちになりました。メータオ・クリニックを訪れて感じたことは、患者さん、そしてスタッフの皆さんにとって毎日が命と向き合い、葛藤の日々であるということでした。資金不足により、助かる命を優先せざるを得ない状況。死が近づいている人々まで支援が行き届くことが困難な現状。過酷な状況の中、スタッフの方々が、本当は皆を助けたいという思いを持ちながら、限られた資源の中で目の前にいる患者さんと真摯に向き合う姿に、心を打たれました。

また、Hope school で出会った子どもたちと過ごした時間は忘れられません。カメラを向けられたときに無邪気に笑う子、どこか寂しげな表情の子。厳しい環境で育ってきた子どもたちの背景を想像すると、胸が苦しくなりますが、少しでも彼らが笑顔でいられる瞬間が増えることを、願わずにはいませんでした。



【Hope school の子どもたちの写真】

今回は約一週間の滞在であり、現地で生活する人々のごく一部しか見ていないため、より



多くの時間を現地の人々と共に過ごすことでまた見方が変わってくるのではないかと思います。全てを理解しようとするのは難しいけれど、何が出来るか考え続けること、現地で生活する人々を思い続けることはできるのではないかと実感した1週間でした。

私は、来年の4月から、看護師としての一步を踏み出します。現地で生活する方々、大学の実習で出会った患者さんから、生きること、死ぬことについて様々なことを教えていただきました。臨床では、病いととも生き、命と向き合う患者さんがいる現場で働くこととなりますが、一人一人の患者さんとの関わりを大切に、自分なりの看護観、死生観を深めていきたいです。

学生生活最後の夏に、メーソットを訪れることができ、将来の選択肢が広がったことは大きな収穫でした。現地で出会った方々との写真は宝物で、手帳に挟んで御守りのようにいつも持ち歩いています。これからも、今まで出会った方々、これから出会う方々とのご縁に感謝し、またいつか現地で生活する人々や子どもたちと再会できる日を楽しみに、夢に向かって日々精進していきたいと思っています。

## 国際保健医療協力のなかで (23)

【東京＝小林 潤】



安倍首相が「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」を日本の外交戦略として提示した。地球上の全ての人に保健医療サービスが届くようにという意図づけである。日本が保健分野の貢献を打ち出すというのは本当に嬉しいことで、多いに期待を持っている。

国際保健関連の会議は「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」フィーバーともいえる。特に日本の皆保険制度が注目を浴びているのだ。しかし全ての人が社会保障を国家から得られるには2015年には国民所得の30%を当てなければいけないといわれている。すでに日本の国家予算の約50%は社会保障関連にあてられていることを皆さんご存知だろうか。これからさらに高齢化社会が進み、保健医療費を中心とした社会保障費は増大する。現在の保健医療のシステムを維持すると、経済成長が2%としても20兆円が2025年には不足するといわれている。収入の40%を税金に払うような北欧諸国を目指すのだろうか。国民の負担を増やせなければ、支出を減らすしかない。医療の効率化、医療費をおさえるために保健・福祉の充実をもっと進めないといけない。

しかし、社会保障は国がやるものだ、それがあたりまえだというのは実は歴史的、世界的にみると、極めて異なるものであることがいえる。生活が困った時、思いもしない病にかかってしまったとき、家族やコミュニティが支援していた／しているのがアジアでは多かった／多いのではないだろうか。「家族福祉」という言葉も存在している。「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」という戦略で国の保健システムが強化されていくことは確かに必要であろう。但し、これだけでは極めて社会的に弱い人々は恩恵にあずかれないと専門家の多くは実は考えている。

JAMに継続して支援をしていただいている会員の皆様や運営メンバーから、家族のような言葉を聞くことができる。なぜだろう。今の時代コミュニティは自分の住んでいる場所





とは限らない。職場の仲間であったり、趣味の仲間であったり、意を同じにしてソーシャルメディアでつながっている仲間であったりする。JAMは自信をもって、こういう気持ちのある支援をやっていきたいと思う。国だけでは、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」が実現するとは思えないから。

## 今月の一枚



ビルマ子供医療基金（以下、BCMF）は、2006年に設立された団体でメータオ・クリニックでは治療することが難しい患者に対して医療支援を行っています。

メータオ・クリニックはビルマから紛争を逃れ国境を越えてやってきたビルマ難民・移民を対象に医療を提供しています。しかし、手術を必要とする重篤な患者には対応しきれないのが現状です。

BCMFではこれらの患者に対し、様々な医療支援を行っています。メーソット市内の病院では設備や専門家が限られていることから、ほとんどのBCMFの患者はチェンマイの大きな病院で手術・治療を受けなければなりません。

また、BCMFの支援を受ける患者の約70%は子供ですが、手術や先進的な治療によって治る可能性が十分にある患者に対しては年齢に関わらず、支援を行っています。BCMFのHP -> <http://burmachildren.com/>

現在BCMFではチェンマイでの患者・家族滞在施設開設のため、5,000ドルの寄付を募るファンレイジング・キャンペーンを行っています。寄付金は滞在施設の風呂場、キッチン、ダイニングルーム、そして車椅子用歩道の改修・改築費用に充てる予定です。

また、寄付金の一部は最低限の家具・日用品の購入代にも充てられます。

このBCMFへの支援は、JAMを通じてのご寄付も承っております。

頂きました寄付金はゆうちょ銀行の海外送金手数料を除いた額の全てがBCMFへ寄付されます。

JAMを通じての寄付の方法につきましては、JAMのホームページをご覧ください。

不明点がありましたら、日本事務局あてにお気軽にお問い合わせください。



## 編集後記

最近、NHKの朝の連続テレビ小説を朝録画しておいて夜帰宅してから夕飯を食べながら見るのがマイブームです。

大正時代の東京の洋食屋の食いしん坊の女の子が大阪から来たへんくつもの東大生と恋に落ち、結婚して大阪に行きます。そして同居する義姉にこりやあまあ、えらいこっちゃなほどの「いけず」をされるのですが、めげずにがんばっていくというお話です。大阪に舞台がうつって義姉のいけずっぷりを見るのをやめようかと戸惑うくらい怖かったのですが、怖かったのは2日だけ。

毎日、楽しみです。うっかり数日見逃したところで1回15分なのでまとめて見てもそんなに疲れないというところも朝ドラのいいところ。皆さんのお気に入りのテレビ番組はありますか？

## 次号の予定

次号は、12月中～下旬ごろ配信の予定です。

ホームページは、随時更新していきますので ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

Facebookにもぜひ「いいね！」をよろしくお願いします。500人のお友だちを達成しました！

皆様、いつも応援を頂きありがとうございます。



**NPO法人メータオ・クリニック支援の会      Japan Association for Mae Tao  
Clinic (JAM)**

日本事務局宛て E メール : [support@japanmaetao.org](mailto:support@japanmaetao.org)

ホームページアドレス : [www.japanmaetao.org](http://www.japanmaetao.org)

フェイスブック : Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

